

# 日本災害情報学会第26回学会大会 大会プログラム



令和5(2023)年3月21日(火・祝)  
会場：国士舘大学世田谷キャンパス/オンライン

◎3月21日(火・祝)

09:30-11:10	口頭発表(セッション1)	[B302, B303, B304, A308/オンライン]
11:20-13:00	口頭発表(セッション2)	[B302, B303, B304, A308/オンライン]
14:00-17:00	シンポジウム	[B301]

## 【参加方法・参加費など】

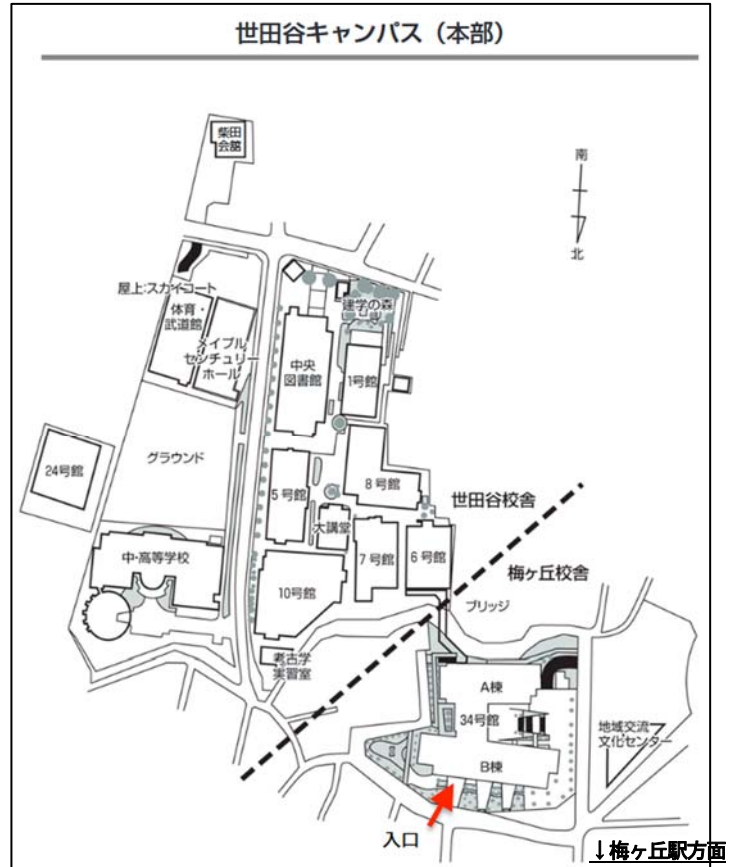
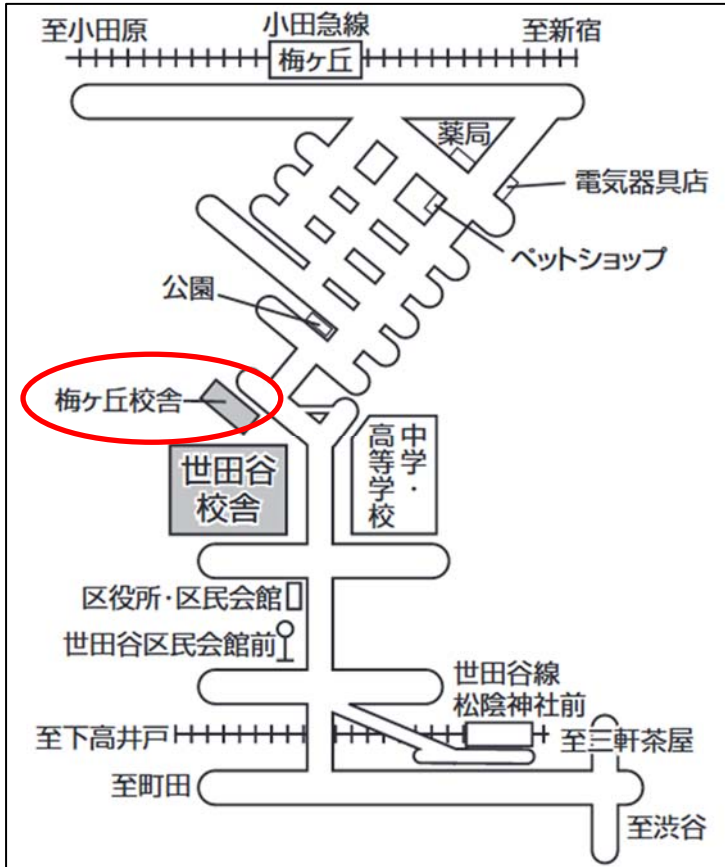
	正会員(名誉会員・賛助・購読会員含む)	学生会員	非会員(一般)	非会員(学生)
大会参加費	4,000円	2,000円	8,000円	4,000円

- 参加をご希望される方は、以下のURL(STORES)から参加チケットを購入してください。
- <https://kst123.stores.jp/>
- 購入後、登録したメールアドレスにチケット(PDF)が届きます。
- オンライン参加の場合は、チケット記載のミーティングURLから入室ください。
- 現地参加される方は、受付でチケットの提示をお願いします。
- 新型コロナウイルス感染症対策のため、現地での参加費の支払いはご遠慮ください。
- 領収書は後日、学会事務局よりメールにてお送りいたします。
- 予稿集のURLもチケットに記載されています。

不明点は、学会大会実行委員会宛 (環境防災総合政策研究機構 荒木 優弥)にご連絡ください  
[jasdis.taikai@gmail.com](mailto:jasdis.taikai@gmail.com)

【大会会場案内（アクセスマップ）】

会場：国土館大学 世田谷キャンパス梅ヶ丘校舎 34号館3階  
〒154-8515 東京都世田谷区世田谷 4-28-1



◆世田谷キャンパス最寄り駅

小田急線梅ヶ丘駅下車・徒歩9分

東急世田谷線松陰神社前駅下車・徒歩6分

※会場である梅ヶ丘校舎へのアクセスは、小田急線梅ヶ丘駅が便利です。

### 【学会に参加する全員の方に対する諸注意】

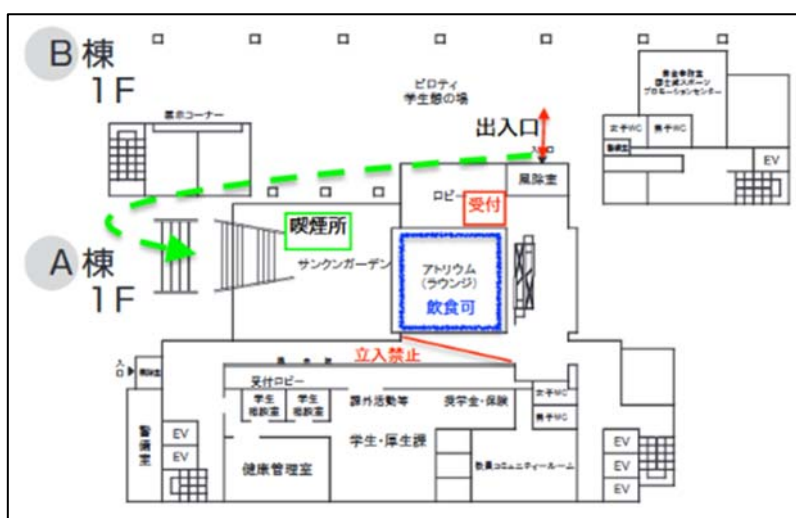
- 第26回学会大会は原則対面での実施となります。
- 今年度に関しては、引き続きオンラインでの発表のセッションを設けます(昨年度春大会に続き、オンライン形式の発表を残し、引き続きこの方式の可能性を検討します)。
- チケットの購入は事前に行ってください。なお現地での支払いは受け付けません。

### 【オンライン参加の方に対する諸注意】

- 当日は9:00から入室できます。
- Zoomクライアントを事前にご自身のPC等にインストールし、最新版へのアップデートをお願いいたします。
- 「オンラインによる口頭発表」に対応するため、現地会場において発表を聞ける会場(A308)を準備します。なお実行委員会では、機材貸出・技術的サポートの用意はありません。
- 現地発表(A~C会場)の内容はZoomでの配信を行いません。
- 「ホストがこのミーティングを開始するまで待機しています」「ミーティングのホストが間もなくミーティングへの参加を許可します。もうしばらくお待ちください」などと表示された場合は、そのまましばらくお待ちください。
- 参加時は、Zoom上の表示名は次のように設定してください：
  - Zoomウィンドウの参加者リスト内のご自身の項の[詳細]→[名前の変更]で設定可能です。
  - 基本的に表示名は、“氏名@ご所属”にしてください。例) 災害太郎@情報大学
  - 司会の方は、氏名の前に「司会者」を付けてください。例) 司会者 災害太郎@情報大学
  - 発表者の方は、氏名の前に発表番号を付けてください。なおその際は、英字・数字部分は半角・1桁表示にしてください。例) A1-1 災害太郎@情報大学
- マイクとカメラが正しく設定されているか確認してください：
  - Zoomウィンドウのマイクアイコン、カメラアイコン脇の<sup>^</sup>をクリックで、各設定を確認できます。
- 発表時には、司会・発表者以外は、全員マイクをミュートにしてください：
  - Zoomウィンドウのマイクアイコンをクリックで、ミュートのon/offを切り替えられます。
- 質疑時に発言したい場合、参加者ウィンドウの「手を挙げる」機能で意思表示してください。
  - 司会者から指名されたら、ミュートを解除し、発言を開始してください。
- 発言を終了したら、「手を挙げる」機能を解除し、再びマイクをミュートにしてください。

### 【現地参加の方への諸注意】

- 大会参加受付は、B棟1階ロビーです。会場（A,B棟3階）にお越しの際は、受付にてチケット（電子または印刷したもの）を提示し、会場内にお入りください。
- 受付にて、検温とアルコール消毒を行います。
- 教室内は飲み物のみ可能です。飲食はA棟1階アトリウム（ラウンジ）をご利用ください。
- 昼食はご持参ください。
- A棟1階（サンクンガーデン）喫煙所を除き、すべて禁煙です。
- 現地のネットワーク回線はEduroamが使用可能です。
- 学会大会で使用する（指定された）会場以外の会議室等には、絶対に入室しないでください
- 発生したごみについては、各自でお持ち帰りいただくようお願いいたします。
- 貴重品の管理は各自の責任においてお願いいたします。万が一、盗難等の被害が発生しても、大会実行委員会では一切の責任を負えません。
- 懇親会の予定はありません。



### 【口頭発表される方全員に対する諸注意】

- 発表1件につき、10分発表+5分質疑です。各セッションの最後に10分の総合討論の時間を設けます。なお、時間経過は以下のタイミングでお知らせしますが、念のため、お手元等でも計測をお願いします。
  - 8分 1鈴
  - 10分 2鈴（発表終了）
  - 15分 3鈴（質疑応答終了）
- 質疑応答中は、画面共有のまま（スライドが見える状態）でお願いします。
- 発表者の際は、スライドショーのレーザーポインタ機能をお使いください。
- 動画を流す場合は、なるべくパワーポイントに埋め込む形にしてください。
- （オンラインセッションの方のみ）発表はZoomの画面共有を使ったプレゼンテーションです。発表者についてはビデオ機器等の動作確認をしますので、セッション開始の10分前には入室ください。その後、必ず画面共有と音声テストを行ってください。司会より指示します。

お困り、緊急時の際は、以下まで連絡をください。

学会大会実行委員会（環境防災総合政策研究機構 荒木 優弥） [jasdis.taikai@gmail.com](mailto:jasdis.taikai@gmail.com)

●発表スケジュール（簡易版）

3月21日（火・祝） 9：00開場

	B302 (A 会場)			B303 (B 会場)		
	発表数	テーマ	座長	発表数	テーマ	座長
9:30~11:10 セッション1	6	A1 システム・水害	佐藤 良太	6	B1 啓発・行政	大津山 堅介
11:20~13:00 セッション2	6	A2 災害情報・ コミュニケーション	本間 基寛	6	B2 資料・データ活用	竹 順哉

	B304 (C 会場)			A308/オンライン(D 会場)		
	発表数	テーマ	座長	発表数	テーマ	座長
9:30~11:10 セッション1	6	C1 防災教育	岡田 夏美	5	D1 オンライン①※	松原 悠
11:20~13:00 セッション2	6	C2 調査・ シミュレーション	安本 真也	5	D2 オンライン②※	石原 凌河

※D 会場については、セッション1(9:30~10:55)、セッション2(11:20~12:45)とします。

現地発表（A~C 会場）の内容はZoomでの配信を行いません。

B棟 3F



A棟 3F



## ●発表スケジュール（詳細版）

### B302 (A 会場)

3月21日（火・祝）9:30~11:10 セッション1

#### A1 システム・水害（座長 佐藤 良太）

A1-1 次世代高速データベース管理システムを用いた災害時3D都市モデル利活用アプリケーションの開発

- 藤原 紘子（株式会社パスコ 経営戦略本部 総合研究所）
- 大辻 喜典（株式会社パスコ）
- 鈴鹿 守俊（株式会社クラスコンピュータ）
- 佐藤 俊明（株式会社パスコ）

A1-2 道路強靱化に資する合意形成のための道路利用実態解析

- 倉田 和己（名古屋大学）
- 佐多 宏太（トヨタ自動車株式会社）
- 浪越 圭一（トヨタ自動車株式会社）
- 井下 大輔（矢崎総業株式会社）

A1-3 伊勢湾台風から10日以内の名古屋市避難者の分布状況

- 荒木 裕子（京都府立大学生命環境科学研究科）
- 倉田 和己（名古屋大学 減災連携研究センター）
- 田代 喬（名古屋大学 減災連携研究センター）

A1-4 2022年の風水害による人的被害

- 牛山 素行（静岡大学防災総合センター）

A1-5 防災アプリ「ハザードチェッカー」の改良と利用者評価

- 有馬 昌宏（兵庫県立大学）
- 川向 肇（兵庫県立大学 社会情報科学部）
- 阿部 太郎（兵庫県立大学 社会情報科学部）

A1-6 災害対応機関に向けた平時からの災害情報の共有 -ISUT-SITE（常時開設サイト）における実践-

- 佐藤 良太（防災科学技術研究所 防災情報研究部門）
- 吉森 和城（防災科学技術研究所 防災情報研究部門）
- 佐野 浩彬（防災科学技術研究所 防災情報研究部門）
- 遊佐 暁（防災科学技術研究所 防災情報研究部門）
- 竹 順哉（気象庁（元 内閣府 政策統括官（防災担当）付））
- 風見 東明（株式会社NTT データ（元 内閣府 政策統括官（防災担当）付））
- 白田裕一郎（防災科学技術研究所 防災情報研究部門）

3月21日（火・祝）11:20~13:00 セッション2

#### A2 災害情報・コミュニケーション（座長 本間 基寛）

A2-1 防災は「人間的自然」を越えられるか 寺田寅彦の自然=災害観の再考

- 高原 耕平（人と防災未来センター研究部）

A2-2 災害制御可能感がもたらすもの

- 及川 康（東洋大学）

A2-3 災害情報の取得方法 経年変化と年代特性 —2017年から2023年の定量調査結果—

- 水野 一成 (NTT ドコモ モバイル社会研究所)
- 近藤勢津子 (NTT ドコモ モバイル社会研究所)
- 吉良 文夫 (NTT ドコモ モバイル社会研究所)

A2-4 災害特別番組を想定した先鋭的手法の是非に関する考察

—津波避難を目的とした仮想条件下での定量的調査—

- 福本 晋悟 (毎日放送 総合編成局マーケティング・PR 部 (人と防災未来センター特別研究調査員))

A2-5 基本フォーマットを逸脱した緊急災害報道は可能か

- 川西 勝 (兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 博士後期課程)

A2-6 降雨規模と家屋被害発生の関係性分析

- 本間 基寛 (日本気象協会)
- 小野 大樹 (長岡技術科学大学環境社会基盤工学課程)
- 遠藤 理 (日本気象協会)

## B303(B会場)

3月21日(火・祝) 9:30~11:10 セッション1

### B1 啓発・行政(座長 大津山 堅介)

B1-1 富士山噴火災害に対する防災授業の検討ーポジティブ感情の想起と強すぎる恐怖の緩和ー

- 秋本 尚美(トヨタ自動車株式会社 未来創生センター)
- 北浜 謙一(トヨタ自動車株式会社 未来創生センター)
- 佐多 宏太(トヨタ自動車株式会社 未来創生センター)
- 浪越 圭一(トヨタ自動車株式会社 未来創生センター)

B1-2 地震発生時における高等学校での防災訓練評価

- 唐澤 優宇(愛知工業大学名電高等学校 科学技術科 都市環境分野)
- 嶋根 由佳(愛知工業大学名電高等学校 科学技術科 都市環境分野)
- 富岡 千遥(愛知工業大学名電高等学校 情報科学科 CG 分野)
- 松原 瑞泉(愛知工業大学名電高等学校 普通科 普通コース)
- グリーン ジュリアン(愛知工業大学名電高等学校 普通科 普通コース)
- 鈴木 皓太(愛知工業大学名電高等学校 科学技術科)
- 中谷 勇喜(愛知工業大学名電高等学校 普通科 普通コース)

B1-3 幼保施設を対象とした体系的防災教育

- 浜上あかり(慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科)
- 森 理紗子(慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科)
- 大木 聖子(慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科)

B1-4 避難生活環境における女性への配慮の不安感と対策意向に関する分析

- 杉村 菜々美(関西学院大学総合政策学部都市政策学科)
- 照本 清峰(関西学院大学建築学部教授)

B1-5 災害対策における「協議会」の成立

- 富澤 周(東京大学大学院学際情報学府)
- 関谷 直也(東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター)

B1-6 キキクル(危険度分布)等を用いた避難情報の検討ー2022年8月の新潟県の線状降水帯等による大雨ー

- 向井 利明(新潟地方気象台(静岡大学防災総合センター教育研究支援員))
- 牛山 素行(静岡大学防災総合センター教授)

3月21日(火・祝) 11:20~13:00 セッション2

### B2 資料・データ活用(座長 竹 順哉)

B2-1 住民の共助活動に着目した市街地火災避難行動に関する研究

ー関東大震災の体験談分析を踏まえた東京都大田区および品川区における  
マルチエージェントシミュレーションー

- 釘崎 理(東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻)
- 大津山堅介(東京大学 先端技術研究センター)
- 廣井 悠(東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻)



- B2-2 東京電力福島第一原子力発電所事故における風評対策の変遷  
—いわき市、福島県、中央省庁の事例を中心に—  
○姜 婉清（東京大学大学院学際情報学府）  
関谷 直也（東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター）
- B2-3 水害危険地域における住民の避難先選択に影響を与える要因—大分県国東市旭日地区を事例に—  
○岡田 太一（関西学院大学 総合政策学部 都市政策学科）  
照本 清峰（関西学院大学教授 建築学部 建築学科）
- B2-4 人と防災未来センターにおける対話型ハンズオンワークショップ  
：参加者と震災資料の関わり方のプロセスに着目して  
○正井 佐知（人と防災未来センター）  
高原 耕平（人と防災未来センター）  
林田 怜菜（人と防災未来センター）
- B2-5 空港における地震発生時を想定した実動訓練と効果  
～高知龍馬空港を例としたアクションリサーチによる分析～  
○船田 千紗（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科）  
大木 聖子（慶應義塾大学環境情報学部）
- B2-6 台風経路アンサンブルデータを基にした自治体向けの仮想災害訓練メニューの考案に向けて  
○高野 雄紀（株式会社ウェザーマップ 技術開発事業部）  
笠見 京平（株式会社ウェザーマップ 技術開発事業部）  
原田 雅成（株式会社ウェザーマップ 技術開発事業部）  
澁谷 亮輔（三井住友海上火災保険株式会社 ビジネスイノベーション部）  
筆保 弘徳（横浜国立大学 台風科学技術センター）

## B304(C 会場)

3月21日(火・祝) 9:30~11:10 セッション1

### C1 防災教育(座長 岡田 夏美)

- C1-1 学生を対象とした帰宅困難者施設運営ゲーム(KUG)の開発  
○堀 洋元(大妻女子大学 人間関係学部)
- C1-2 小学校教育における火山の取扱いに関する一考察 - 「火山噴火メカニズム」導入の必要性 -  
○長島 雄介(兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科)  
阪本真由美(兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科)
- C1-3 学校防災推進に係る教員の課題と外部団体による試み - 防災研究会「学防ラボ」の活動を通して -  
○松原みなみ(愛知工業大学大学院工学研究科)  
井上 莉久(愛知工業大学工学部土木工学科)  
野澤 英希(愛知工業大学工学部建築学科)  
横田 崇(愛知工業大学地域防災研究センター)
- C1-4 「災害取材映像」の防災啓発効果と最適な映像の選択  
○木戸 崇之((株) エー・ビー・シー リブラ(朝日放送テレビ報道局より出向))
- C1-5 学校における地震避難訓練の歴史と現状に関する一考察  
○甲斐田庸一(放送大学教養学部 生活と福祉コース)  
奈良由美子(放送大学教授)
- C1-6 「津波てんでんこ」を実現するための親子間の認識共有に関する研究  
○岡田 夏美(京都大学防災研究所)  
矢守 克也(京都大学防災研究所)

3月21日(火・祝) 11:20~13:00 セッション2

### C2 調査・シミュレーション(座長 安本 真也)

- C2-1 「防災小説」を用いた地域間交流がもたらしたリアリティの共同的な構築  
- 「全国『防災小説』交流会」の実践を通して -  
○薄井 慧(慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科)  
大木 聖子(慶應義塾大学環境情報学部)
- C2-2 富士山噴火災害における車両避難シミュレーション構築 静岡県裾野市における噴火前避難の検討  
○浪越 圭一(トヨタ自動車株式会社 未来創生センター)  
佐多 宏太(トヨタ自動車株式会社 未来創生センター)  
北濱 謙一(トヨタ自動車株式会社 未来創生センター)
- C2-3 避難意向の推定手法の分類と生じうるバイアスに関する考察  
- 表明・顕示選好と真の選好の関係性に注目して -  
○南 貴久(東京大学生産技術研究所)  
加藤 孝明(東京大学生産技術研究所)  
杉山 高志(東京大学生産技術研究所)

C2-4 原子力災害被災地における住民コミュニケーションの実態と地域再生の課題

—双葉郡葛尾村における全戸訪問悉皆調査を通して—

○服部 正幸 (福島大学大学院経済学研究科)

関谷 直也 (東京大学大学院 情報学環総合防災情報研究センター)

小山 良太 (福島大学 食農学類)

C2-5 分散避難を考慮した SP 調査に基づく避難選択行動に関する研究

~川崎市直下地震を想定した高津区・宮前区を対象に~

○多田 健太 (東京大学工学部都市工学科)

廣井 悠 (東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻)

大津山堅介 (東京大学 先端科学技術研究センター)

C2-6 医療・福祉サービスの継続に関する住民の不安感と対策需要の認識の関係性

○長濱 光葉 (関西学院大学総合政策研究科)

照本 清峰 (関西学院大学建築学部)

## A308/オンライン(D会場)

3月21日(火・祝) 9:30~10:55 セッション1

### D1 オンライン①(座長 松原 悠)

D1-1 災害急性期の緊急行動指示送信のための 準天頂衛星システムの利用と課題

○嶋津 恵子(都立産業技術大学院大学 産業技術研究科)

濱下 宙千(東京都立大学 システムデザイン学部 航空宇宙システム工学科)

芝田 朋世(東京都立大学 システムデザイン学部 航空宇宙システム工学科)

山本 拓(東京都立大学 システムデザイン学部 航空宇宙システム工学科)

須藤ゆうの(東京都立大学 システムデザイン学部 航空宇宙システム工学科)

正木 青空(東京都立大学 システムデザイン学部 航空宇宙システム工学科)

西村 颯真(東京都立大学 システムデザイン学部 航空宇宙システム工学科)

D1-2 BCP 対応訓練における訓練評価手法の提案 ~企業を対象として~

○田中健太郎(香川大学大学院創発科学研究科)

磯打千雅子(香川大学)

D1-3 ARCS モデルを用いた防災ゲームの開発と評価 ~防災教育教材によるソフト対策への貢献~

○北村 颯(香川大学創造工学部創造工学科)

磯打千雅子(香川大学)

D1-4 徳島県内における南海トラフ巨大地震臨時情報に関するアンケート調査 ~沿岸10市町の場合~

○黒瀬 隆斗(徳島大学理工学部理工学科)

金井 純子(徳島大学理工学部理工学科)

中野 晋(徳島大学環境防災研究センター)

小川 宏樹(徳島大学理工学部理工学科)

白山 敦子(徳島大学理工学部理工学科)

鈴江 和好(徳島県危機管理環境部とくしまゼロ作戦課事前復興室室長)

D1-5 自治体における「南海トラフ地震臨時情報」に関する対応計画の調査

○松原 悠(滋賀大学データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター)

James D. GOLTZ(京都大学防災研究所)

矢守 克也(京都大学防災研究所)

城下 英行(関西大学社会安全学部安全マネジメント学科)

杉山 高志(東京大学生産技術研究所)

中谷内一也(同志社大学心理学部)

**3月21日(火・祝) 11:20~12:45 セッション2**

**D2 オンライン②(座長 石原 凌河)**

D2-1 防災コンピテンシーから考える学習カリキュラム内容の検討 ~倉敷市の小学5年生を対象として~

- 福井 文菜(香川大学学生 創造工学部創造工学科防災・危機管理コース)
- 磯打千雅子(香川大学)

D2-2 氾濫解析シミュレーションを活用した住民による水害時の地域シナリオ構築

- 佐々木浩貴(香川大学創造工学部)
- 田中 龍二(株式会社ウエスコ)
- 池本 悠華(株式会社ウエスコ)
- 待寺 彩香(株式会社ウエスコ)
- 松田 哲裕(株式会社ウエスコ)
- 竹之内健介(香川大学准教授 創造工学部)
- 矢守 克也(京都大学教授 防災研究所)

D2-3 公衆衛生上の危機に要するリスクコミュニケーション:緊急時対応センターの組織と人材に関する一考察

- 加藤 美生(国立感染症研究所感染症危機管理研究センター)
- 小林 望(国立感染症研究所感染症危機管理研究センター)
- 齋藤 智也(国立感染症研究所感染症危機管理研究センター)

D2-4 地震への備えを促進する社会イベントに関する一考察

- 秦 康範(山梨大学 地域防災・マネジメント研究センター)

D2-5 市町村地震ハザードマップの断片化に関する一考察

- 石原 凌河(龍谷大学政策学部)
- 香出 海人(龍谷大学政策学部)

# 関東大震災から100年 ～次の震災時に情報をどう防災に生かすか～

日時：令和5年3月21日(火 祝日) 14時00分～17時00分

共催：日本災害情報学会

場所：国士舘大学世田谷キャンパス34号館3階301教室

国士舘大学防災・救急救助総合研究所

1923年(大正12年)9月1日に発生した関東大震災は死者・行方不明者が10万5000人を超える明治以降最大の地震災害です。その災害から今年で100年となります。現在9月1日が「防災の日」となっているように、関東大震災は我が国の防災の研究や対策、それに復旧や復興のあり方などに多くの教訓を残す近代防災の起点といえる災害でした。日本災害情報学会と国士舘大学防災・救急救助総合研究所では、主に震災時の情報面での課題に焦点を当ててシンポジウムを開催します。

## シンポジウムプログラム

14:00～14:10	開会の挨拶	片田 敏孝	日本災害情報学会会長 東京大学大学院情報学環・特任教授	(約5分)
		佐藤 圭一	国士舘大学長	(約5分)
14:10～15:10	基調講演 テーマ	「関東大震災から100年 国難災害に至急、備える」		(約60分)
		河田 恵昭	阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長 関西大学社会安全学部特別任命教授・社会安全研究センター長 元京都大学防災研究所長・名誉教授	
15:10～15:25	休憩			
15:25～16:55	パネルディスカッション			(約90分)
	パネリスト	関谷 直也 福島 隆史 中林 啓修 山中 麗子	東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター准教授 TBSテレビ報道局 解説委員(災害担当) 国士舘大学防災・救急救助総合研究所准教授 元日本防災士会常務理事、元東京消防庁玉川消防署長	
	コーディネーター	山崎 登	国士舘大学防災・救急救助総合研究所教授	
16:55～17:00	閉会の挨拶	島崎 修次	国士舘大学防災・救急救助総合研究所長	(約5分)

## お申し込み

お申し込みには、事前登録が必要です。右のQRコードからフォームにアクセスできます。

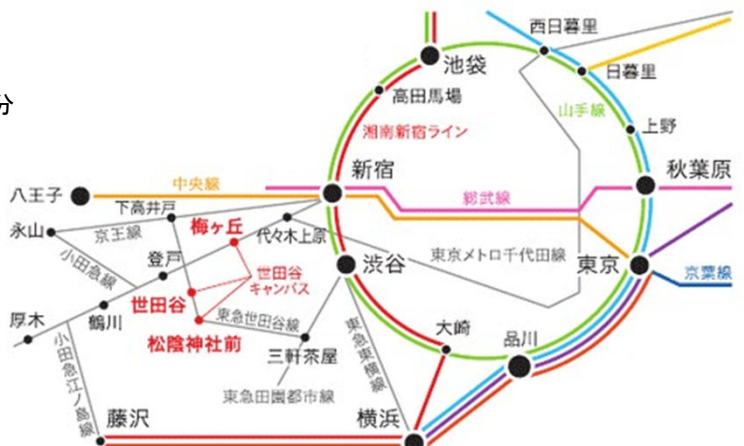
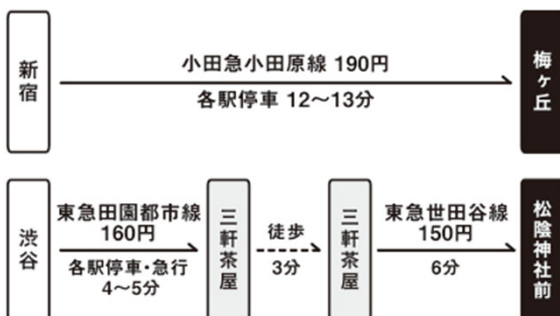
◆防災・救急救助総合研究所ホームページ <http://www.kokushikan.ac.jp/research/DPEMS/>



## 会場へのアクセス

国士舘大学 世田谷キャンパス  
〒154-8515 東京都世田谷区世田谷4丁目28-1

小田急線梅ヶ丘駅下車、徒歩9分  
東急世田谷線松陰神社前駅または世田谷駅下車、徒歩6分



基調講演テーマ:「関東大震災から100年 国難災害に至急、備える」



阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長、関西大学社会安全学部特別任命教授・社会安全研究センター長、元京都大学防災研究所長・名誉教授

河田 恵昭

◆プロフィール

関西大学社会安全学部特別任命教授(チェアプロフェッサー)・社会安全研究センター長。工学博士。専門は防災・減災・縮災。現在、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長(兼務)のほか、京大防災研究所長を歴任。京都大学名誉教授。2007年国連SASAKAWA防災賞、09年防災功労者内閣総理大臣表彰、10年兵庫県社会賞、14年兵庫県功労者表彰、16年土木学会功績賞、日本自然災害学会および日本災害情報学会会長を歴任。

著書:「これからの防災・減災がわかる本」(岩波ジュニア新書)、「スーパー都市災害から生き残る」(新潮社)、「12歳からの被災者学—阪神・淡路大震災に学ぶ78の知恵」(共著)、(NHK出版)「津波災害」(岩波新書)、「にげましょう」(共同通信社)、「津波災害(増補版)」、「災害文化を育てよ、そして大災害に打ち克て 河田恵昭自叙伝」(ミネルヴァ書房)など

パネルディスカッション テーマ「次の震災時に情報をどう防災に生かすか」

パネリスト



東京大学  
情報学環総合研究情報研究センター准教授

関谷 直也

◆プロフィール

1975年新潟生まれ。東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター准教授(災害情報論、社会心理学)。博士(社会情報学)。東京大学卓越研究員。東日本大震災、原子力災害伝承館上級研究員。福島大学食農学類客員准教授を兼務。主著に「災害情報」(東京大学出版会)「風評被害」(光文社)「災害」の社会心理」など。



TBSテレビ報道局 解説委員(災害担当)

福島 隆史

◆プロフィール

TBSテレビ報道局 解説委員(災害担当)  
1986年TBS入社後、報道局に配属。社会部記者、JNN報道特集ディレクター、社会部デスク、JNNニュース編集長、JNN三陸臨時支局長などを経て現職。日本災害情報学会副会長、気象庁「防災気象情報に関する検討会」委員、日本民間放送連盟 災害放送専門部会幹事など



元日本防災士会常務理事

山中 麗子

◆プロフィール

元日本防災士機構被災地支援チーム統括監。1973年東京消防庁入庁(婦人消防官2期生)、消防学校で教官として救急救命士の養成に携わる。「東京消防庁災害時支援ボランティア」担当で1万6000人のボランティアを創設。玉川消防署長を歴任。



国士舘大学防災・救急救助総合研究所准教授

中林 啓修

◆プロフィール

慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科単位満了修了後、独立系シンクタンク、明治大学、沖縄県知事公室地域政策安全課、人と防災未来センター勤務を経て現職。専門は危機管理学。

コーディネーター



国士舘大学 防災・救急救助総合研究所教授

山崎 登

◆プロフィール

国士舘大学防災・救急救助総合研究所教授。静岡大学防災総合センター客員教授、人と防災未来センター上級研究員。1976年NHK入局、自然災害と防災担当の記者、解説委員、解説副委員長。2017年から現職。2018年 兵庫県功労賞(防災)、防災功労者内閣総理大臣表彰。著書に「防災から減災へ〜東日本大震災取材ノートより〜」(近代消防社)など。